

令和元年度福岡市早良保健所運営協議会議事録

1. 日 時 令和元年8月20日(火) 午後6時から7時半まで
2. 場 所 早良保健所 講堂
3. 出席者 岩室委員, 上澤委員, 大坪委員, 緒方委員, 窪山委員
小林委員, 田北委員, 長委員, 津上委員, 中委員
中山委員, 平畑委員, 平山委員, 藤島委員
藤平委員, 南正覚委員, 吉田委員 (以上17名, 五十音順)
- 欠席者 荒木委員, 内野委員, 梅野委員
- 事務局 永野所長, 向井健康課長, 大久保地域保健福祉課長, 瓜生衛生課長
- 傍聴者 なし
4. 開 会 定足数確認(委員20名中17名出席)
5. 所長挨拶 永野所長
6. 委員の自己紹介
7. 保健所職員の紹介
8. 議題1 会長・副会長の選出について
事務局の提案で出席委員の承認により, 会長に中山委員を, 副会長に田北委員を選出
9. 議題2 平成30年度事業報告
向井健康課長, 大久保地域保健福祉課長, 瓜生衛生課長が説明

【質疑応答】

- | | |
|-----|--|
| 委 員 | がん検診について, バリウムによる胃の透視の検査はだいたい何名くらいか内訳がわかるか。 |
| 事務局 | 保健所で実施する集団検診はバリウムのみ。医療機関で受けられる方は内視鏡検査が多いかと思うが医療機関で受けた分の内訳は把握していない。早良保健所で受けた方は831人で, おそらくバリウム検査を受けた方の人数に相当すると考えられる。 |
| 委 員 | バリウム検査よりも内視鏡に誘導したほうがより効果的な検診になるかと思うが。 |
| 事務局 | 内視鏡検査の方ががんの発見率も高いと言われている。ご意見は今後の参考にさせていただきます。 |

委員 虐待が疑われる家庭に対し訪問を行っているとおあるが件数は。

事務局 母子健康教育・育児支援等のうち、保健師が行う訪問指導の件数が1,071件であるが、この件数は虐待に関するものだけではなく、母子保健に関する全ての件数となっており、虐待に関するものだけの件数は計上していない。

事務局 保健福祉センター全体では、健康課と地域保健福祉課以外に子育て支援課という部署があり、そちらが主に虐待に関する訪問等を行っており、件数等もそちらで把握しているところである。

委員 認知症初期集中支援推進事業について、対象者はどうやって抽出しているのか。

事務局 いきいきセンターから認知症の初期でいろんな課題を抱えて悩んでいるご家庭があるという連絡を受けて、訪問をしている。

委員 初期というのは具体的にはどのような基準か。

事務局 認知症の疑いのある方を対象とし、対応するもので、生活の中で必要な支援を整理し、病院にかかっている人は受診を勧め、認知症の診断を受けてもらい、その上で適切な介護保険サービスにつなぐ。およそ6ヶ月の間で集中的に行っていく。

国の方針としてこういうチームを作ることが自治体の義務となっている。多いのは単身の高齢者で本人が認知症という自覚がなく、他の持病があっても病院に行っていない人や、高齢者の夫妻で老々介護のような形になって医療機関や福祉サービスの利用の仕方がわからないという方が結構いるので、そういう方にこちらから出向いて介護サービスや医療機関への誘導を行うもの。

委員 乳幼児健診について、3歳児健診を受けるときに保育園としてはこのお子さんはいろんな面で詳しい専門的なフォローが必要ではないかと考える子がいるが、保健所でそういうことができているのか。また、資料にある健診の受診率や参加人数は福岡市全体のものか、早良区のものか。割合は少ないが未受診の方がいるようだが、そのフォローは。

事務局 資料の数字は早良区での実績であり、受診率は市内では高い水準となっている。未受診については、はがきを出したり電話を掛けたりし、それでも来られなければ家庭訪問へつなぎ、状況確認している。何らかの養育環境の支援が必要な場合は、状況確認だけにとどめるのではなく継続支援をしていくように努めている。

委員 配慮があるとわかって安心した。

委員 医療安全相談について、高齢者の中で医療に対する不安を抱えているという話はよく出るが、一番割合が大きい医療内容への相談というのはどういった相談が多いのか。

事務局 医療内容の相談は、治療や看護等に関すること、転院や退院を病院から勧められたことに対する不安など。医療過誤の相談については病院名が分かっている、本人から病院への相談内容を言ってもよいと同意が取れれば病院へ相談内容に関する事実確認をし、患者さんに納得のいく説明をするようにと指導している。

委員 感染症の風しん、梅毒の発生状況の数が多くなっているが、その方々がその後治療をされた経過や後遺症などについてはサポートしているか。

事務局 福岡市の麻しん患者さんについては、後遺症なく治られている。また、風しんの感染で心配される先天性風しん症候群について、妊娠初期の妊婦さんへの感染は確認されていない。梅毒については、福岡市だけではなく全国で拡大している。感染源は異性間の性交渉が多いと言われている。男性には20代から50代で、女性では20代で増えているといわれている。若い世代の性的な接触が原因で感染が増えているということであれば、若い世代への啓発も必要と考えている。

事務局 梅毒については、発生届では保健所で個人が特定できないので、その方がその後後遺症があったかなどは確認できない。

10. 議題3 令和元年度主要事業

向井健康課長, 大久保地域保健福祉課長, 瓜生衛生課長が説明

【質疑応答】 なし

11. その他報告事項

健康まつり, よりみち健診のご案内

12. 閉 会